尾西逸鬼の日記のような独白文プラス！

逸鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

尾西逸鬼の日記のような独白文プラス！

【Ｎコード】

Ｎ１５２８Ｒ

【作者名】

逸鬼

【あらすじ】

本家『尾西逸鬼の日記のような独白文』が、ギャグとゲストを率いてパワーアップ！？　逸鬼の日常をオリキャラやアニメキャラ、ラノベキャラと面白ろおかしく語るものです。ギャグセンスを磨くために頑張ります。面白かったら一言でいいので感想を！

その一。２／２４（木）「記念すべき第一回だな」Ｂｙイツキ（前書き）

始まっちゃったーｗ

その一。２／２４（木）「記念すべき第一回だな」Ｂｙ　イツキ

２／２４（木）

「よっ！　逸鬼」

……だれ？

「俺だよ、俺？」

いやいや、なぜに疑問形？

詳しく言ってみようか、イツキ君。

「言ってんじゃん」

スルーすべきところだぞ、アホ。

「自分にアホ呼ばわりされたくねぇよ！」

ふん、そんなことを気にするなんて……随分と小物だな。

「おーい？　キャラが崩れてねぇか？」

お前と違って、俺自身はキャラもなにもないからな。気まぐれに何でも出来る。

便利だろ？

「惰作者め」

ありがとう。それは俺に成長の余地があるということだな、分かります。

「随分とプラス思考なことで」

なぁ、いいからタイトルコールやらない？

「ん？　まあ一回目だからな。やっておくか」

よし、それじゃあ……せーの！

「尾西逸鬼の日記のような独白文プラス、スタート！！」

……うわっ、なに一人で叫んでるの？

イタい子っ！

「……おい！」
さっ、始めましょうか。
「おい、だからテメェふざけ」
はいカットー。

・始まったな。

「最初から散々じゃねぇか！　読者増えねぇぞ」
（笑）。
「使わないとか言ってるもの、早速使うなよ！？」
ネタだから大丈夫。
「そういう問題か！？」
いいか、ここは人生の通過点なんだ！
「だからなんなんだよ。つうか、谷口のネタじゃねぇか」
番宣ならぬ、人宣だな。
「需要ない。やめておけ」
だが、断る。ちょくちょくやるさ。
「はいはい、そうですか。まぁ、とりあえずこの独白文の自己的なルール説明をするか」
そうだな。今日はそれが目的だし。
では、サクッと行ってみようか！
「やっとまともに始まったな……」

・ルールみたいなもの。注意、イツキ君は口出しをしないで下さい。

「おい、それはこれの根本からの否定にな……」

はい、口封じ（作者の権力乱用）。
ではでは行ってみようか！

ひとつ目。本家と同じく、小説としての文体をなるべく保つ。

二つ目。内容は、基本的に本家と同じもの。

三つ目。メインは本家なので、時間がある時に更新する。したがって、必ずしも毎日更新ではない。

四つ目。基本的にギャグ構成。毎回だれかゲストを招いて、トークをする。ゲストはオリキャラ、二次元キャラを一応は想定中。

五つ目。ゲストキャラのリクエストは、なるべく受ける。出来る範囲で『全力』で執筆すること。

これくらいか。ということで、今回のゲストはオリキャラのイツキ君。自己紹介をして貰おうか、よろしく。

「……ッガ……ガムテープ剥がして、いきなり自己紹介かよ！？」

ビックリしすぎだよ？

さっ、早く早く。

「無駄に笑みがうぜぇな、おい。……はぁ。じゃあとりあえず。名前はイツキ。これの作者である、逸鬼の一部の思考と言ったところか。物事を考えるときに、怒りとかツッコミ。楽しむこととかを俺が言うことが多いはずだ。ようは、感情が高ぶった時の思考ってとこか。まっ、慣れてくれ」

……つまらないなー。

「俺の自己紹介に面白さを求めるな！」

頑張れよ、俺！

「無茶振りだ！　センスないのはお前が一番、良く知ってるだろ！」

まぁな。じゃ、これからに期待っと。

「……心無しか、ハードルを自分で上げた気がする」

「気のせいだ」

「だぁーいーろーくぅー！」
発狂しとるなよ。今日は終わるぞ。
「嫌な終わり方！」
これからの課題だな。頑張るか。
よし、今日の独白終了ー。

……って、独白じゃないのか。どうする？
「あ？　俺に振るなよ……」
じゃあ適当に決める。
……よし、決定。

今日の独白プラスのゲストはイツキ君。
今日の独白終了ー。

「最後だけなら、確かに独白だな。納得出来ないけどよ」

その一。２／２４（木）「記念すべき第一回だな」ＢＹ　イツキ（後書き）

基本はオリキャラ重視です。ご了承を。

その二。２／２８（月）「ねぇ、四日は空けすぎだよ。逸鬼」Ｂｙ　おーにし

逸鬼の特技発動！
分・身　ザ・セカンド！
特に意味はないですｗ

その二。２／２８（月）「ねぇ、四日は空けすぎだよ。逸鬼」By おーにし

２／２８（月）

・小説のこととか。

「バカ逸鬼！」

……いきなりなにかな。おーにしさん。初登場で暴言は結構なＮＧだと思うけどな。

「言っても構わないって。僕は切実に、そう主張する」

「オレもそれには賛成だな」

でたな、イツキ。ちなみに俺との一人称の区別を計りました。

で、なにたいしてそんなに不満なのかな？

「まずは、これの更新について！」

「お前、毎日更新をなるべくするとか言っておきながら、あれから四日も経ってるんだぞ」

じゅ、需要ないし……疲れてたし、時間なかったし……。

「言い訳は良いの！」

「やるって決めたことくらいは、しっかりやれよ」

う……善処します。保証なんか全くしやしないけどな！

「ダメだこいつ……」

ほかになんかあるのか？

「あるある。ほら、このページ見て」

ん、どーした、おーにしさん？

小説か。まだ一話しか投稿してないみたいだな。……ざっと見たが、ベタ過ぎないか？

「シラを切るな！　お前は一体なんかい同じことをすりゃ気がすんむんだよ」

な、ナンノコト？

イツキの言うことが解らないヨー。
「ええい、おーにし、あれを見せてやれ！」
「あいさ！」
あんたらやけに息がピッタリだな。若干引くぞ？
「「そりゃ、自分自身ですからねぇ！」」
そこまでシンクロしなくても。
「御託はいいから、はい。今度はこのページ」
ん、なになに。どっちも小説だな。なんだ、更新が止まってるじゃないか。この作者誰？
「お前さんだよ！」
……分かってるって、イツキ。俺の方が、ちゃんとしてるってことだろ？
「お前、オレの話は聞いたか！？」
「ふざけはもう良いから、とにかく！」
ん？
なんだよ。
「今回の見切り発車はどうするの？」
どうするもなにも……頑張る？
「そういって挫折してんじゃねぇかよ」
あ、あはははは……。
でも今回は自信あるよ。
「どこから来るの？　その自信……」
いや、だって今回はユーザー間の交流も増えてきたし、頑張ろうって思えるからな。
「まぁ……そうだな」
「前はなにも反応がなかったからねー……根気がなかったのもあるけどさ」
そそ、だからいろんな面で今回は頑張れそうなんだ。だから、やるんだよ。
もっとも、設定とかはこれから煮詰めるんだけどな。

「結局、駄作者じゃねぇか！」
まあな。でもしっかりと出来そうだ。

・予餞会がありましたね。

あれは疲れた。
「そうだな。まぁお疲れさん」
「道徳王選手権なんてのやってたしね。あれは恥ずかしいねー」
出る気はなかったんだけどなー……詳細とかいらなくね？
「オレが他人なら見たくないな」
だろ？
反応があればやるってことで。
「そもそもネタにしにくいしね～」
よし、今日は終わるか。
「あいよ」
「そうだね」
今日のゲストはイツキとおーにしでした！　おーにしの自己紹介はまたいずれ……。
よし、今日の独白終了ー。

その三。3／2（火）「二日ぶりか。今日はアンケートあるから、気が向いたら

3／2（水）

一日休んでまた再開！
さぁ今日も気張っていこー！
「疲れるから、やめろって！」
ノリ悪いなー。イツキ、そんなのじゃモテないぞ？
「お前もそうだろうがっ！」
え、なんのこと？

・お腹痛い……。

いきなりの腹痛って大変だよな。
「そうそう、授業中とかに来ると辛いんだよな」
ゲームを中断させられて、すごく腹立たしかった。
「そこかよ。べつにゲームにそこまでこだわらなくてもいいだろ」
それもそうだが、苦労して頑張っているものに変わりはない。
「剣道やってろ、剣道」
また近いうちにやるっての。そういや、剣道の時に腹痛来るのが一番困る。
「うわ、確かにあれはキツイな。袴とかで腹を締め付けたうえに、重武装のせいで手荒いにもなかなか行けやしない」
慣れれば二、三分で着脱可能だけどな。なんでも慣れだよ、うん。
ってことでゲームやるか。
「なんでそうなるんだ……」

・これだけは、これだけは譲れなかったのに！

「なにをそんなに騒いでやがる、逸鬼」
だってあれだよ！？
「あれってなんだ、あれって。詳しく説明しろ」
後期になってから一度もなかった、学年授業の号令だよ！
「あー、あれか。ずっとなかったからな、確かに」
だろ？　だから、卒業までこのままないんじゃね？　とか思ってたのによー。
「最後の最後に来たわけだ」
そういうこと。ショックなうえに、なにより萎えた。そして放課に叫んだ。
「うわー……すみませーん、変態がここに居まーす！」
おい！
「まあ気持ちは分かる……行動はともかくとして」
お前って、一応俺だよな！？
「もちろん」
じゃあなんで、否定的なんだ。
「なんつーか、オレって、お前の中の思考とはまた違う思考なんだよな」
……どういうこと？
「じゃあ、例えばお前が面白いと思うような馬鹿騒ぎをする。だけど、頭のどこかではそれを、つまらない、みたいに冷めた目で見る。それがオレだな」
またややこしいことを……。まあ事実っちゃ、事実か。
「多重人格みたいなイメージか？　注意しておくが、多重人格とは違う。あくまでイメージだ」
とりあえず読者への配慮だな。でも、こういうのって誰にでもありそうだよな。
「同感だ。そんな経験があるって人は居ないもんか」
募集してみるか？
「一応は」

ってことで、似た経験があるって人、是非ご感想に一言下さい！
期間は記載なければ無制限ですよ。
「これは恒例だな。じゃ、オレからもよろしく頼む」
今日はこんなものかな。
「そうだな。ちょうど良いくらいだ」

よし、今日のゲストはイツキでした。次はおーにしでも行っとく？
ってことで、今日の独白終了ー。

その四。３／６（日）「乱入者登場！　緩さは当者比１．５倍！！」Ｂｙ　奏

３／６（日）

本日はプラス初の外部ゲストが登場の回。さてどうなるのやら……。

深弦さーん、始めますよ！

「はーい。了解でーす！」

そうそう、プラスのタイトル「」はゲスト任せなので考えておいてくださいね？

「え！？　マジですか！？　……「乱入者登場！　緩さは当者比１．５倍！！」……みたいな？」

はい、それ決定。緩くなるのかは……話題次第？

「素の俺がいる時点で勝手に緩くなるのです。これぞ真の深弦の力……！」

では過大な期待を逸鬼とイツキとおーにしは寄せてみる。

「よろしくな～」

「宜しくお願いします」

言っておくが、君らの出番は基本的にないからな？　ということで、ガムテープ貼り！

「ガムテって、口の周りに貼るとそれだけで若干痛いし、剥がす時やたら痛いんすよねー。しかも痛いってアピールが伝わらないっていうね」

でも視覚的にも分かりやすいから、使い勝手がすごく楽。ほかにやるなら……赤バツマスク？

「テンプレっすね。バラエティー番組にありがちだ。っていうか、本題の方移らなくて良いんですか……？」

あれ？　緩くやるんじゃ？

と、少しついてみる。

「本気でやると本気で緩くなるっていうか、逸鬼さんが話題用意しとくって言ったんじゃないですか。なろうのユーザー同士のメッセージで」
考えてありますってば！　さっきのは言ってみたかっただけですよ？
話題の文はもうすでに作成してあって、載せるだけという現状がここに。
「仕事早ぇ！！　逸鬼さんさ～すがぁ～」
まあ、ホスト側だし？
浮かれてテンション上がってるだけかもしれないけど。
とりあえず、最初の話題へＧＯ！

・なぜか実現したコラボ。

正直なとこ、この展開は予想外だったな。まさか深弦さんから、出たいと言ってくれるとは思ってなかったので～。
一応聞くと、どんな考えあって？
「どんな考えって言ってもなぁ……。単純に呟き日記の対談がめちゃくちゃ面白くて、そんで「よしじゃあ向こうに乱入してやろうぞ！」みたいな？
あれじゃ物足りないときたか……ちなみに俺も同意なのだけれど。
「物足りないのも一理有りなんですが、あの時は俺の超個人的な理由（メシの時間っていう……）で中途半端に尺切れになっちゃいましたからねー。それのお詫びもしておこうと思いまして。
まあ一番の理由は対談が楽しかったからなんですけどッ！！」
これはまた嬉しいお言葉を。
あ、ちなみに“俺”とか言ってる深弦さんですけど、立派な女の子ですよ？　読者さんは勘違いなさらぬよう。
「全然立派じゃないっすよ。普段の言葉遣い聞いたら、多分びっくりしますって。友達から「お前男か」とかしょっちゅう言われます

もん。見ず知らずの人にはまず男だと勘違いされますし。まぁそれは格好のせいなんでしょうけど」
そこまで言わなくても……まぁ周りの女子の一人称が俺の率が高い俺には、全くの無問題ですけど。なにせ剣道部だし！
「俺のクラスの元剣道部女子は一人称、ウチか下の名前ですけどね。熱烈な嵐ファンの。
俺の周りで一人称が俺の女子は一つ上の先輩ぐらいしか居ないっすねぇー。みーんなウチって。あ、一人「おら」が居た！」
“おら”はないな～。ネタならなくはないですけどね。
っと、そろそろ次の話題！

・コラボについて。

今回のゲストはユーザーの深弦さんですけど、メッセージで「自分の子（キャラ）を出して欲しい」というものがあったんですよ。
快諾したんですが……深弦さん、やってみません？
「自分の子……というと？　えっと……詳しくお願いします」
自分の小説のキャラですね。自分が作った（生み出した）キャラは自分の子、という感覚があるので～。
「を、出して欲しい……というのは……。スミマセン、理解力低いんです……」
こういうのは嫌いじゃないですし、大丈夫です！
ゲストとして参加させませんか、ということになりますね。イツキのような感じ、で伝わるかな？
「つまりは、イツキさんやおーにしさん的な感じで定期参加すると？　それともこの場で俺の子を召喚すると？」
考え的には前者かな。ただし俺は召喚されようが、なにされようが完全フル対応する予定！
「参加させていただけるなら、がっつり話しますよー。まぁ召喚は俺が対応仕切れる自信が無いので止めておきますが」

はは、了解です。
では、続いて日常パート？　独白にもあるような話題、行ってみよー！

・休日の過ごし方。

休日はどう過ごしてるのかな、と思いまして。ちなみに俺は、基本は家でまったりと。
「家族で出掛けるか、友達と近くのショッピングモールに行くか、家でゲームしたりとか小説読んだりとか小説書いたりとかしてるか、ですね。一番多いのはもちろん、三つ目、その次に一番目かな。基本的に引きこもりに近い属性なので」
なんだか似た感じだっ！
今までは塾や部活があって、休日をあまりまともに過ごせた思い出があまりないな。それ故に時間の使い方が分からなかったり。
今日に関しては親に髪の毛切りに行けと言われたけど、筋肉痛のせいで行く気になれないしなー。
「そういえば一時期部活で顧問がやたら気合い入って、休日が無かった頃が有ったなぁ……。土日なんか一日練しか無かった。おかげでその頃は、小遣い貯まって解放された時に使いまくったんですが。
塾はやってなかったなぁ。進研ゼミやってたけど、それもまともにやらずに溜め込んでたし。授業が無い今になって勉強したいなーとかおもう」
その気持ち、分かる……！
部活は所属期間はほとんど休日が無かったかな。遠征にしょっちゅう行ってたので。
逆に校内の一日練習は、まずなかったのは嬉しいけど。
「遠征とか羨ましい……。こっち遠征どころか、大会すら年一回なんですよ！？　夏のコンクールオンリー！！　しかも地区大会以上に進めた試しが無い。おまけに三年のコンクールはタイムオーバー

で失格で銅賞すら貰えなかった。まぁ、音楽室（四階）から一階まで楽器運ぶだけで一苦労だから、逆に大会少なくて良かったっての も有るっちゃ有るんですけどね？」

オーケストラ部でしたっけ？

それとも吹奏楽部？

「吹奏楽部ですね。コントラバスを弾いてました。かなり重いんすよ、あの子。まぁ、慣れましたけど。チューバやティンパよりかはマシですし」

あぁ、あれは重そうですよね……

最後の年に納得のいかない結果は悔しい……俺も夏にその思いを味わっているので。

ネタが尽きてきたな……ってそうだ、これこれ。

・自己紹介を！

テンション上げて行ってみよー！

ダメならダメと、どんと来い！

「奏深弦です。春から高校生で、なろう歴は去年の九月からなので……七ヶ月目ですね。めっちゃ言ってるけど、ゴーイングアンダーグラウンドのファン。小説はファンタジーとＳＦが好き。ちっちゃい頃から想像もとい妄想が好きで、小説を書くに至った。そういえば最近アニメみてないな。将来の夢は迷い中。一応は医療関係の安定した職に落ち着きたいと思っています。

……こんな感じでいいですかね？」

ＯＫです！

なんだか聞きたいこと多いな。

とりあえず、

将来のこと考えてるとか、格が違う……！

と、言わせていただきます。
「格が違うなんて……。そんなこと無いですよ……なんかそれも漠然としてますし……。むしろなりたい職業が多すぎるくらいで」
でも俺なんて、本気で作家とかなりてぇ、とか考えててとても現実的じゃないしなぁ。
なりたい職業があまりないんですよ。これから見付けるつもりではあるんですけどね。
「一番なりたいのは、ぶっちゃけると声優とか作家とかの不安定な職だったりしちゃうんですけどねー。まぁ、安定した職に就きたいのが一番なんですが。
なりたい職は高校三年間でじっくり考えれば良いのではと思いますよ、はい」
まっ、それもそうか。
さーてと、緩くどころか若干だらだ……言っていいのか？
ま、まぁちょっと強引かもしれないけど、これにて終了。
最後に何か言いたいこと等ありますか？
「言っておきたい……。
連載の方もよろしくお願いします。また来ます。今回ももなすごく楽しかったです。
以上です。ありがとうございました」
こちらこそ、ありがとうございましたっ！

〜　反省会　〜

いや、なんかさ、今回のは俺が采配ミスらなければ、もっと楽しめた気がするという……。ついでに言えば、小説てしての文体を保つと、対人対談は雰囲気作りが難しいな。
まぁそこで、どうするかというのも大事なんだろうけどな。うし、

次に活かすとしようか！

ということで、今回のゲストはユーザーさんの奏深弦さんでした！
気になった方は即検索を！
よし、今日の独白終了ー。

その五。３／１７（木）「ちゃんと出来るかなぁ」ＢＹ　本番直前のユウ（前書

キャラ崩壊を起こしてるかも……
注意して読んで下さい！

その五。３／１７（木）「ちゃんと出来るかなぁ」Ｂｙ　本番直前のユウ

３／１７（木）

やぁ、イツキ。お久しぶりだね。元気にしてた？

「てめぇ、今までなにしてやがった！」

え？

ゲームとかゲームとか部活とか。

「勉強はどうしたァ！」

……やってなくはない。というか、プラス更新出来ないけど？

「やってなくても更新してねぇだろうが！」

それはそうだが、そんなことより、今日は外部ゲストキャラが来てますよー！

「は？　マジ？」

マジ、マジ。大真面目。

「えっと……どいつが来るんだ？」

はい、それでは――すとむみずみさんのリクエスト『誓い』シリーズのユウさんです！

ユウさん、ようこそいらっしゃいました！

「こんにちは！……ここでいいのかな？」

間違ってません、間違ってません。ほら、招待状にも書いてあるけど……読んでくれる？

案内のところ。

「えっと……『尾西逸鬼の独白文プラス！と書かれたプレートの収録室に入って下さい。第一印象が怖い男性がいます』……どこにいるのかな？」

そこだよ。そこ、そこ。

「って、おい！　逸鬼！　ガムテープの次は目隠しかよ！」

「……あの人？」

あの人です。まぁ、目隠しはあとで取るとして。
「今すぐに取りやがれ！」
ユウさん、自己紹介を！
「無視かよ、おい」

・ユウの自己紹介。

「僕の自己紹介か～。
中学校を今年卒業しました！
『誓い』というシリーズで、僕のことは知ってもらえるんじゃないかな？」
んー……自キャラじゃない、短編キャラになると自己紹介ってろくに出来な……
「そ、それは言ったらだめだよ！？」
ま、まあそうだよね。うん。あはははは～。

・さて……なにも話題がないって話題。

「な、ないの？」
ゴメンなさい。ありません。
「アホか。用意しとけよ」
痛っ！
え、イツキどうやって……。
「おーにしに手伝って貰ったよ」
しまった……手足を縄で縛って油断してたわ……。
「甘いっての……って、うお！？　女子！？」
失礼だな。どう見たって女子だろ。ね？
「あははは……こんにちは。ユウです！」
「やっべ。なんでこんな元気一杯な子がゲストなんだよ」
リクエストだ。リクエスト。

「もしかして……邪魔かな？」
「いえいえ、全く！　ゆっくりしてけ。うん、気楽にやろうか！」
さりげないアピール、っと。
「違うっての！」

・あれ……君……。

「今年、卒業したってことは、今現在は同い年ってことか」
「そういうことになるかな」
「卒業式はどうだった？　ああいうのって、なんか泣けて来るんだよな」
「僕も泣いたなー。やっぱりお別れって悲しいもん」
「俺はなんだろ……一年間を振り返ったら、ホロリと」
格好悪い～！
「うっせ！」
「二人とも仲が良くていいなぁ」
「はぁ！？　どこが！？」
諦めろ、これはもうテンプレ並によくある台詞だ。反論すると、余計に現実味が増すっていうやつだ。
「僕とケンの方が、もっと仲が良いけどね！」
「ケン……って？」
ん？　なんか扉の外がうるさくないか……？
「って、扉開いたぞ！？」
「止めないで下さい、会長！　今まさに、僕っ子が俺のことを呼んだんです！
会議よりこっちの方が重要ですって！」
「だ、だめだよ杉崎！　ここ、収録中なんだよ！」
「そうだぞ、健。そんなに元気あるなら、あたしと一戦やらないか？」
「一戦ヤらないか！？　深夏、本当か！？」

「キー君、そんなわけがないでしょう。少し落ち着きなさい」
「俺はいつだって冷静ですよ！　ただ欲望に忠実なだけですって、知弦さん！」
「先輩……真冬は早く家に帰りたいんです！　モン〇ンをやらないといけないんです！」
「真冬ちゃんが、俺と中目黒のアレを書くのを止めてくれるなら考えなくもない！」
「そ、それは不可能ですよ！　真冬の楽しみを取らないで下さい！」
……お、おおう。なんなんだいきなり。
「さ、杉崎。帰るよ！」
「ちぇっ……せっかくのチャンスだったのになぁ」

「帰ったか……」
「なんだったのかな……」
さぁ？
「ユウーーー！」
「あ、ケン！」
「ユウ、大丈夫か！？」
「うん。なにもないけど……どうして来れたの？」
「今日の朝、ユウを驚かせようと思って、ユウの家に行ったんだけどさ」
「え？　だって今日は用事があるって……」
「驚かせたかったんだよ。まぁ、行ってみたらユウはいなくてビックリしたのは、俺だったけど。ユウママに聞いたら、ここに行ったって聞いてさ。
でも、着いたらなんか騒がしかったろ？　急いで走っちまった」
「ケン……ありがとう！」
……。
「……おい、逸鬼」
ん、なに？

「こいつらリア充？」
そうじゃない？
「畜生、やっぱりかよ！　羨ましいっての！」
……ああ。駄目だ。完全に二人の世界に入ってるよ。
イツキ、出るか。
「そうだな。出るか」

「えっ……ケン！　ここでは駄目だよ！」
「いいの、いいの。誰も見てないし！」

後日、置き忘れたボイスレコーダーの最後にこんな会話が録音されていた。
が、残念なことに、このあとは電池切れで録音が出来なかったようだ。

――はいっ。というわけで、すとむみずみさん　からのリクエスト、『誓い』シリーズのユウとケンでした！
キャラ崩壊しちゃってたかなぁ……不安すぎる。
あと、途中で出て来た五人は、分かった人は感想で教えてくれると嬉しいです。再現度とかも、五段階評価でしてくれると、さらに喜びますよ！

よし、今日の独白終了ー。

その六。３／２３（水）「久しぶりの登場だけど……覚えていてくれるかな？」

３／２３（水）

くっ……馬鹿な。データが吹き飛んだだと！？
だが、俺はまだ負けない！
いくぜ、俺のターン、ドロー！
俺は手札から使い勝手の良い駒（イツキ）を召喚！
「おかしい！　イツキって言ってるが、絶対に何かがおかしいだろ！」
黙れ！
速攻魔法発動、攻撃封じならぬ、口撃封じ！
「なっ！？　ガムテよりひど……んー！」
甘いんだよ。フィールド魔法創造の庭（クリエイティブガーデン）が発動している限り、俺は無敵だ！
「甘いよ、逸鬼。トラップカード発動、死の作品破壊ウィルス。手札から、イツキ《アホ》を墓地へ送り、作者が発動したカードの効果を全て向こうにする！」
な、なに！？
あ、イツキが解放されただと！？
「逸鬼ぃ！　お前は絶対に許さねぇ！」
くっ……神秘の中華鍋を発動する！
「ククッ、だから甘いんだよ。逸鬼。
速攻魔法発動、エネミーコントローラー！」
社長の専売特許だろ！？
良いのか、それ！
「気にすることはない！」
あぁ……コマンドを言いはじめたよ……なんつーか、イタい。
「コマンドは正しく入力できた。これでイツキのコントロールを得

る」
チィッ！
くそ、ターンエンドだ。
「僕のターン、ドロー！」
な、なんだよその勝ち誇った笑みは。
「バトルフェイズ！
イツキで逸鬼に攻撃！」
「たまには下剋上しねぇとなぁ！」
く……ぐはっ！
「そして、速攻魔法発動、バーサーカーソウル！」
それは王様の専売特許だろぉがぁー！
「関係ない！　行け、イツキ！」
「おうよ！」
ち、畜生が！

逸鬼　　ＬＯＳＥ
ＶＳ
おーにし　ＷｉＮ

はい、というわけで、今日のちょこっとコラボは遊戯王でした！
「今回は誰に対しての企画なんだ？」
「すとむみずみさん、だよね？」
そうだね。自己紹介で遊戯王が好きってあったから、ちょっと挑戦をしてみた。
「予想通りのぐたぐた感溢れてるけどな」
まぁ良いんじゃない？
なにより楽しめたしさ。
「同意かな。ちなみに前回の五人組はファンタジア文庫の葵せきな

先生著『生徒会の一存』シリーズからの主要キャラでした」
　あの時は桜音さんが好きって言ってたから、それに対してだな。
また出そうとは思っていますよーっと。
「そういや、おーにしは久しぶりだよな」
　そういえばそっか。やぁ、お久しぶり。
「白々しいね、この人。一応、イツキには前回の時会ってはいるんだけどね」
「あん時は助かった」
　ていっ！
「な、なにするんだよ逸鬼！」
　いや、だって俺の計画邪魔されたわけだし？
「だからって、どこからともなく木刀出して攻撃しないでくれるかな！？」
　えー、無理っす。
「んなことだから後輩から『鬼』って言われるんだよ」
　気にしてませんから。ある意味誉め言葉じゃないか？
「まぁ『格好いい』とか『かわいい』とか言われると、本当に不機嫌になるからね」
　いやー……気恥ずかしいというか、見るやつは目が腐ってんの？
　って思うからね。
「素直に受け取れないのかよ」
　出来たら苦労してないってーの。

・今後の予定。

　頑張って毎日更新するか。
「おお、マジか？」
　出来る限りな。
「でもイツキ、多分僕らは要望でもなかったら出番少ないよ？」
「え……なんでだよ」

「ほら、現在でもコラボの予定が二件。聖夜の方でも今後キャラが増えてくるから、そっちの方も出て来るだろうし」
さすがおーにし。大方間違いなしだな。
「ね？」
「マジかよ……」
ということで、この二人が見たいって人は一言どうぞ！
「おお！？
まるで逸鬼じゃねぇぞ！？」
酷いな。あっ、別にこの二人じゃなくても見たいキャラが居れば是非に。
「ここら辺はいつも通りだね」
「全くだ」

今日はこんなものかな。
久しぶりの更新は、オリキャラのイツキとおーにしでした！
ではでは、またいつか！

その七。３／２４（木）「おぉ。連日登場だ」ｂｙ　おーにし

３／２４（木）

今日は尺が短いよー。

「ん？　そうなの？」

ようこそ、おーにし。我が世界へ！

「尺は短いって言う割には、余分なことするんだね……」

だって楽しくないと、やる気も何も起きないだろ？

「まぁそれには同意。元々このプラス！　は誰かに見て貰うことも考えているからね」

当初の目的のギャグセンスを磨くってのが、どっかに行ってるんだけどな。

「元から難しい課題だよね、それ」

だよなぁ……。俺にボケの才能は求めたらダメだよな。

「完全ツッコミ要員だからね」

時と場合によって変わらなくはないけどな。

でもそんなもんか。

「そうそう。あ、そうだ。なら、いっそのことギャグは諦めてみない？」

と、言うと？

「堅苦しくはなりやすいけど、マジもののファンタジーとか書いてみないかってこと」

無難と言えば無難だよな。

「でも結構確実かもしれないよ？

少なくとも逸鬼に取っては」

笑いが全くないってのも嫌だけどな。

「そりゃね。適度に入れてみないかってことさ」

やってみるか。また今度。

「やるなら、もう少しキャラの心情とかを前面に押し出したいよね」
あー……それはわかるな。どうしても薄っぺらくなりがちだしな。
「あと、さりげなくで良いから風景の描写を入れたりとかね」
あれって案外難しいんだよな。下手に入れると雰囲気すらぶち壊しかねないし。
「練習するしかないって、そういうのはさ」
まっ、それもそうか。

よし、今日はこれくらいで終了！
「本当に短いね……」
その分、他の小説を頑張るんだよ。
「了解、了解。頑張ろうか」

今回のゲストはおーにしでした。
イツキはちょっと自粛中？

まぁ何はともあれ、今日の独白終了ー。

その八。５／３「本当は昨日投稿するつもりだったのに……あと駄作です」ｂｙ

あ、お二人さんお久しぶりですね。
「おい、逸鬼。軽く流してスルーするつもりか？」
言うまでもないな。
「……今更か」
「今更だね。諦めたほうが僕らのためだよ、イツキ」
まぁまぁ。イツキにおーにしさんも久しぶりなんだから愚痴ってないで。
「原因は面倒くさがっていたお前なんだけどな」
そんなわけでタイトルコール！
「人の話を聞けよ！」

尾西逸鬼の日記のような独白文プラス！　始まるよ！

「むしろ始まってるんだけど……」
細かいことを気にしたらダメだよ、おーにしさん。

・で、だ。

ところでなんかテーマとかある？
全くのノープランなんだけど。
「おいおい……マジかよ。ネタも何もなきゃ、コメディー調目指すこれは致命的なほどに話が展開しないんだぜ？」
仕方ないだろ。だって最近忙しかったし、いちいちそれをネタにしてる暇すらないっての。
「そうだね……じゃあ逸鬼、僕らが音沙汰なかったときは何をして

たのか振り返ってみない？」
そんなんで話が続くとは思えんが……やるしかないか。

・そんなわけでこんなことをしてました。

満開の桜が印象に残る入学式を経て、とある高校に入学して、毎日をそれなりに頑張って生活してきてる。以上終わり。
「み、短かっ」
「いくらなんでも簡略しすぎだ、アホ」
お前らなぁ……忘れてるかもしれないが、俺が今まで更新をしなかった理由は一重に文字打ちが面倒だったからだぞ？
そんな俺が詳しく面倒に書くわけがない！
「「（これ、暴露して良い内容か？）」」

文字数足りたし今日はこれくらいで。
あ、でも次は少し企画ものでもやる予定。

それじゃ、またお会いしましたらー！

「……俺たち、今回ろくに何もしてなくね？」
「……そうだねぇ……」

そこ、うっさいぞ？

六月二十七日。「む……我の出番は予定から削除されているのか……？　まぁ自

ひっさしぶりーのプラスだな～♪
「ね、ねぇイツキ、逸鬼が壊れちゃった！」
「……諦めろ。この馬鹿の衝動的な行動を理解するのは、かなり無駄な行為だ」
「……そうだったね。今更か」
「そう、今更だ」
なぁ、お前たち、酷すぎない！？
「「全っ然、酷くはない」」

◇◆◇◆

まぁ真面目にやります。
「当然だな。やってもらわないと困る」
へいへい。で、今回は俺の勝手な意向でイツキと回していきます。
「なるべく疲れないように、でも楽しくな」
そそ。一応はテスト週間中の身。あまり遊んではいられないのさ。
「で、そんな感じの言い訳をズルズル続けてプラスは放置されたわけだな」
い、いや……まぁそうだけど！
「認めるなよ、おい！」
で、だな。
「はいはい。なんでしょうか」

子供って無邪気でいいよね～。
「は？　いきなり、なに言い出しやがる、変態」
いや、違うから。普通に俺の好みは同年代ですから！
「で、結局なんなんだよ」
いやさ、今日帰りに小学生の低学年くらいの子が下校中だったんだよ。
そしたら、ある一人の男の子が、
『か～め～は～め～はぁーっ！』
って、振り付けまでしながら、全力で友達に撃ち込んでたんだぜ！？
俺は、大人になったらまず出来なくなるソレを惜しげもなくやるその子に、かるく尊敬をしたって話。
「よかったな。さらってたら、お前の身体はチリ一つ残ってないぞ？」
さらわないから！
んなことしても得もなんもないし！
「なるほど、つまりは年上が趣味だと」
いや、それも別に言ってないから。って、お前調子乗りすぎ！
結局いいたいことがなんか纏まってないじゃん。
「大丈夫だ、それが独白文の真髄だから」
一番知りたくなかったな、それ！
じゃぁな、また会いましょうか！
今回のゲストはイツキでした。次回は遊戯王のデッキレシピ研究的なことをしてみたいな。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1528r/

尾西逸鬼の日記のような独白文プラス！

2011年10月9日22時58分発行